

(2) 施策の方向性に関する評価

重点施策

1. たばこ対策
2. がん検診の充実
3. がんに関する相談支援の充実

各施策と個別目標

分野	施策の方向性	取り組むべき対策	5年間の評価	今後の課題・方向性
がん予防の推進（1次予防）	①目や心に留まる啓発活動	<ul style="list-style-type: none"> ・チラシ、ケーブルTV等を活用した効果的な啓発方法、内容の検討 ・がん検診啓発サポーターとの連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・集落保健衛生委員会・自治会長会等の場を活用して、検診受診の必要性やタバコについての啓発を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・厚生労働省から出されたがんのリスク要因によると、HPV・ピロリ菌・肝炎ウィルス（B型・C型）の感染症が、がんのリスク要因となることが明らかにされているので、検診等の際啓発に努め、感染防止を推進する。
	②たばこ対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健との連携による未成年者の喫煙率ゼロに向けた取り組み ・家庭・学校・地域における受動喫煙防止の取り組み ・たばこをやめたい人へ相談・治療への支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康長寿おおなん推進会議等の働きかけもあり、H28年4月から町内全小中学校が敷地内禁煙となった。 ・公民館主事会に出向き、「たばこの煙のない施設登録」「各公民館における敷地内禁煙に向けた検討」を依頼。 ・胸部CT検診の場を活用して、禁煙したい方へ禁煙外来のPRを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・たばこは、いろいろながんのリスクであるとのエビデンスが確立しているので、たばこ対策を強化する。がん予防としてとらえるなら、禁煙を推進する必要がある。 ・邑南町ヘルスアドバイザーの協力を得た禁煙に関する啓発の実施。 ・まずは公共機関の敷地内禁煙をすすめる。 ・たばこをやめたい方への支援として、邑智病院禁煙外来の設置を働きかける。 ・邑智病院の協力を得て、医師から禁煙の働きかけをしてもらう。たばこをやめたい方への相談、治療の実施。 ・受診しやすい体制づくりとして、まずは役場から外来受診を職扱いにできないか検討する。
	③生活習慣の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・「健康長寿おおなん推進会議」の取り組みとして検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康長寿おおなん推進会議の各部会で、生活習慣改善のための取組みを検討し、部会を中心に啓発を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・厚生労働省から出されたがんのリスク要因によると、生活習慣の中で、喫煙（受動喫煙を含む）・飲酒・肥満・塩分ががん予防のエビデンスがほぼ確実視されていることから、これらの生活習慣改善に取り組んでいく。
	④子宮頸がん予防ワクチン接種の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校1年生を対象に予防接種の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・子宮頸がんワクチンについては、副反応等の理由で接種見合わせになっている。 	
	⑤職域との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ・各事業所における出前講座を通じた正しい知識の啓発 ・職域の健康づくりを検討する会の組織化と具体的取り組みの検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・働き盛り部会を中心に事業所訪問を行い、出前講座の利用をPR、そのメニューの中に「知っておきたいたばこの知識」等の啓発を設けている。 ・商工会との連携強化を図っている。商工会通信にいろいろな健康情報や検診受診の勧め等の記事を掲載し、働きざかり世代の方に届けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・商工会通信をどの程度見ていただけて啓発の場になっているか、商工会と評価し、貴重な場なので可能な限り継続する。

分野	施策の方向性	取り組むべき対策	5年間の評価	今後の課題・方向性
	⑥学校保健との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> 各学校における「がん予防」とテーマとした教育の推進 学校保健委員会を通じた保護者への啓発 	<ul style="list-style-type: none"> 授業で出前講座（最初の1本を吸わせない働きかけ）を実施したが、学校の中での優先順位が低く、他に波及しなかった。 学校保健委員会は食生活に重点を置いた取り組みを行っている。（母子保健検討会） 	<ul style="list-style-type: none"> どの場で共通認識を図っていくのか。 がん予防は学校の指導要領に入ってくる予定だが、他の課題が山積みなので、取り入れてもらうのが難しい状況。一緒に検討しながら、学校主体に取り組んでもらう。
早期発見・早期治療（2次予防）	①検診受診率・精密検査受診率向上を目指した効果的集団検診・施設検診（対策型がん検診）の充実	<ul style="list-style-type: none"> 受診しやすい検診体制の整備 施設検診（医療機関）の情報提供と受診勧奨による子宮がん・乳がん検診の受診者増加にむけた取り組み 検診開始年齢の方、3年未受診者の方への受診勧奨による初回受診者の増加にむけた取り組み 要精密検査者への受診勧奨及び未受診者対策 	<ul style="list-style-type: none"> セット検診・日曜日検診・ランチタイム検診・女性限定時間の設定・託児等、受診しやすい体制整備を行っている。 女性の検診については、近隣3医療機関と委託契約を結び、年間を通じて個別健診を実施。各自の都合がよい時間に受診できる体制を作っている。 3年継続未受診者に対して、検診申込書の中に未受診通知を入れ、受診勧奨を行っている。（H29は受診歴別や好発年齢別に通知文を作成した。） 精密検査未受診者・継続未受診者に対して、業務担当・地区担当保健師から電話による受診勧奨を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 若い世代の受診率向上に向けた取り組みの強化。欠診理由や事業所ごとの受診率等を分析し対策を検討する。 退職者への集団検診案内。 検診周知、申込書通知方法の検討。 子宮がん、乳がんは年齢調整死亡率が高く（全年齢・壮年期とも）対策の強化が必要である。 個別検診の実施方法の検討。 各種検診の受診者数・受診率が減少しており、受診者増加に向けた働きかけが必要である。 現在、職場で検診のある方は除外して通知しているが、対象者全員に通知して、受診の動向を見定める。（女性の検診で試行する。また、個別検診も積極的にPRする。） 初回受診者を増やす働きかけを工夫する。 精密検査未受診者に対し、地区担当保健師からの働きかけをおこない、精検受診率を向上させる。
	②早期発見・早期治療を目指した任意型がん検診の積極的活用	<ul style="list-style-type: none"> 人間ドックの拡充についての検討 人間ドックにおける要精密検査者の受診状況把握についての検討 「ペプシノゲン検査」「前立腺検査」「HPV（ヒトパピローマウイルス）検査」の継続 ピロリ菌検査（ABC検診）実施についての検討 「胸部CT検査」の拡充についての検討 	<ul style="list-style-type: none"> 人間ドックについては、結果をフォローする体制がまだ構築できていないので、現状の枠で実施していく。 若い年代の方に人間ドックを受けていただく働きかけを工夫し、壮年期の受診率につなげていく。 「ペプシノゲン検査」「前立腺検査」「HPV（ヒトパピローマウイルス）検査」等の任意型検診は継続実施。 がん計画中間見直しにむけて検討中。 開始当初は、禁煙に対する意識啓発の場としてとらえていたが、受診者は禁煙の意思があまりなく、禁煙につながらなかったため、肺がん早期発見のための検診として位置づけ、継続している。結核肺がん検診・職場を通じて、喫煙指数が500以上の方に受診を呼びかけているが、受診者が伸び悩んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 69歳まではドックでという方や職場で受ける方も多い。これらの精度管理が進めば、全体の底上げになる。 中間見直しに合わせて、それぞれのがん検診の有効性を分析し、より効果のある検診（任意型検診を含む）を実施していく。 特に、エビデンスの認められたABC検診の実施に向けて前向きに検討する。H31年度からの実施に向け、近隣実施市町村の情報把握を行う。

分野	施策の方向性	取り組むべき対策	5年間の評価	今後の課題・方向性
早期発見・早期治療（2次予防）		<ul style="list-style-type: none"> 効果的実施方法（精度管理）についての検討 	<ul style="list-style-type: none"> 県が毎年実施する制度管理に関する調査には回答しているが、改善に向けての検討は十分にできていないので、計画見直しに合わせて制度管理についても検討している。 	<ul style="list-style-type: none"> 精度管理を行い、効果的・効率的な健診を実施する。
	③肝炎ウイルス検査の受診促進	<ul style="list-style-type: none"> 「肝炎検査」の啓発と受診勧奨 	<ul style="list-style-type: none"> 毎年、特定健診申込書配布に合わせて、40歳・45歳の方に肝炎検査の申込とりまとめを行っているが、受診者は伸び悩んでいる。これまで肝炎検査を実施した方の確認を行い、台帳を整備して、未検査者への働きかけを強化していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 出前講座のメニュー化 職域への啓発 台帳整備により対象者を明確にし、働きかけを強化する。
	④関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> 商工会・企業会等町内事業所との連携による受診者増加にむけた取り組み 医療機関との連携による受診者増加に向けての取り組み 「おおなんさくらカード」を活用した受診者増加に向けた取り組みの検討 	<ul style="list-style-type: none"> 商工会だよりに、各種検診の必要性や町が実施する検診日を掲載し、職場健診として受診できない方の受診を呼びかけている。 「おおなんさくらカード」を活用し、インセンティブによる受診者増加に向けた取り組みを検討し、予算要求したが、財政的な面から実施は見合わせとなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 商工会や企業会等の町内事業との連携継続。 邑智病院との検討会を行い、効果的な検診について協議する。
がん患者・家族等への支援（3次予防）	①がん相談支援体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> 「がん情報提供促進病院」を活用した相談支援体制の整備 「がん相談支援センター」及び「がん情報提供促進病院」の認知度を高める取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> 邑智病院内での体制づくりとして、緩和ケアチームによる医療情報の提供や、患者・家族の相談支援という点では、思うように機能できなかったが、H29年12月19日に緩和ケアチームの立ち上げ起案を行った。 緩和ケアチームのスタッフ研修を行っており、今後情報発信を行う予定。 最近では、急性期病院からの連携バスが少しずつ増えてきており、定期受診の間のフォローを邑智病院で行うようになってきた。これにより、少しずつ患者さんとのかわりが増えてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> 緩和ケアチームを中心に、患者・家族の相談・支援体制を整えていく。 連携バスをきっかけに、急性期病院との連携づくり、患者や家族との関係づくりを行っていく。
	②がん患者団体等への支援	<ul style="list-style-type: none"> 「おおなん元気サロン」の自主活動支援 「おおなん元気サロン」の周知と参加者増加への取り組み支援 意見交換会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> 「おおなん元気サロン」は、リーダーを中心に自主活動をおおむね月1回開催。行政や邑智病院も依頼に応じて、支援を行っている。 サロン参加者は固定化しており、新規参加者がいない。また、これまで参加されていた方も、高齢化や体調不良で参加できなくなっている。 サロン参加者の思いや参加目的が各自違っており、本来のがんサロンの目的を達成していない。 	<ul style="list-style-type: none"> リーダーや参加者と話し合いを行い、「おおなん元気サロン」は患者やその家族の方々の憩いの場と位置づけ、自主化に移行する。
	③地域の医療・介護サービス提供体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関と連携した広域的サービス提供体制についての検討 	<ul style="list-style-type: none"> 地域包括ケア体制の構築に合わせて、広域的サービス提供体制の検討を行う予定にしているが、まだ十分な検討ができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域包括ケア体制構築に向けた話し合いの中で、がん患者やその家族支援という視点をもちながら検討を行う。（若いがん患者さんの地域でのフォロー体制づくりも併せて検討する。）